

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 19 年 6 月 20 日

(ふりがな)

氏名： 多田隆治

所属(職名): 東京大学理学系研究科 教授

会議名	SSEP
期間(移動を含む)	平成 19 年 5 月 28 日 ~ 平成 19 年 6 月 3 日
用務地(国・都市)	アメリカ合衆国 テキサス州 ヒューストン
目的	IODP に提出された提案書の評価
<p><u>会議内容及び報告事項</u> 先ず、Talwaniから、IODPの現状、特に、石油価格の上昇や予算削減にともなう、プラットフォーム運行計画の変更、掘削計画の変更に関する説明がなされた。さらに、それに伴って、SSEPでのproposal reviewにおいても、これまでより早い段階で競争力の無いproposalの却下を行い、proposalの選別を厳しくするようにとの要請があった。次に様々なパネルからの近況報告があった。その中で、特記すべきは、2003-2007 の間にgroup 1 とされOTFに残っているproposalについて、8月のSPCにおいて再評価が行なわれ、絞込み(あるいは、優先順位付け)が行なわれる点である。また、Jim Moriが次期SPC議長となる事、などが報告された。</p> <p>次に、proposal review process 特に Mission proposal の review process の説明がなされ、proposal reviewを開始した。今回は、33のproposalが提出され、そのうち13が新しいproposal、そのうち3つがMission proposalである。また、外部査読を終えたproposalが2つある。今回審議したproposalのうち2つのfull proposal、2つのpre proposal、2つのAPLが却下された。また、5つのproposalが外部査読にまわされ、2つのfull proposal、1つのAPLがSPCに上げられた。また、1つのproposalがCDPとしてSPCに上げられ、もう一つが、CDPかどうかの判断をSPCに預ける形でSPCに上げられた。また、3つのMission proposalは、全てMissionとするには及ばないとの判断がSPCに伝えられる予定である。</p> <p>Rudy Steinのあとのヨーロッパからの共同議長としてHeiko Palike(古海洋)が選出された。次回には、多田が共同議長を退職する予定であるが、<u>その後の日本からの共同議長候補は、テクトニクス、岩石、あるいは地下生物圏分野から出すのが望ましいと思われ、次回までに、候補を決めておく必要がある。</u></p> <p>今回のSSEPは、11月12-15日にフランス、ボルドーで行なわれる予定である。また、<u>その後2008年5月末は、日本あるいは東アジアで開催する事が決まったので、次回までに候補地を内定しておく必要がある。</u></p>	
備考	

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等
上記下線部に対する対応をよろしくお願いします。

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日：平成 19 年 6 月 6 日

(ふりがな) やまぐち こうせい、たかい けん、たけうち みお

氏名：山口 耕生¹、高井 研¹、竹内 美緒²

所属 (職名): ¹海洋研究開発機構、²産業技術総合研究所

会議名	SSEP
期間 (移動を含む)	平成 19 年 5 月 28 日 (月) ~ 6 月 3 日 (日)
用務地 (国・都市)	アメリカ合衆国 ヒューストン
目的	IODP に提出された掘削プロポーザルの科学的な内容について、国際委員間の議論を重ね、評価・育成する事を目的とする。
<p><u>会議内容及び報告事項</u></p> <p>今回の会議では、前回 (15 本) の倍以上となる合計 35 本のプロポーザルについて、議論及び育成を行った。委員は (1) Fluids/Faults (海底下微生物圏を含む)・(2) Paleoclimate・(3) Solid Earth/Petrology の 3 つの分科会 (Breakout Session) に分かれ、それぞれ 10 本・13 本・12 本のプロポーザルを取り扱った。</p> <p>今回は Deactivate となったプロポーザルが多かったのが特徴として挙げられる。科学的重要性が認められつつも、長年にわたる SSEP 及び Proponents の努力も空しく、プロポーザルが却下されるのは非常に残念な結果である。通常の大規模研究申請の際と同様に、競争原理の導入は必要であり、結果として "Deactivate" が生じるのは不可避な事であると思われる。しかし、IODP 航海の場合は特に、通常の大規模研究申請のように採択率を低くする (競争率を高くする) べきではないと考える。</p> <p>出席者は、事前準備のために合計で数百ページに及ぶ英文プロポーザルを熟読し、議論のポイントを整理し、発表用ファイルを作成し、発表の練習をし、そして会議が始まった後でも連日の議論のために毎晩深夜までプロポーザルを読み返して論点を整理したり、発表の準備をしたり、議論内容をまとめる報告書を作成するために朝の 5 時近くまで SSEP 間で E メールによるやりとりを繰り返す等、各人が継続的に猛烈な努力を重ねた。このような無償で献身的な努力の結果の積み重ねが、今日の IODP を支える柱の 1 つになっている事を実感した日々であった。</p>	
備考	